

② 小 学 校 生 活

(解答は、すべて解答用紙に記入すること)

- 1 現行の小学校学習指導要領解説「生活編」の「生活科の目標」の「教科目標」の「教科目標の趣旨」の内容として、適切なものを次のア～オから3つ選び、その記号を書きなさい。

- ア 遊びや学習、人との触れ合い等の活動を行うため、あらかじめ生活上必要な習慣や技能を身に付けることを目指す。
イ 身近な人々、社会、自然とのかかわりに関心を持ち、主体的に活動できるようにすることが大切である。
ウ 生活科のどの内容においても、自分自身に気付くことで、そこに映し出される対象への気付きが生じる。
エ 双方向性のある活動をする中で、感じ、考え、気付くなどして、自立への基礎を養うことを目指している。
オ 学習上、生活上、精神的な自立という3つの自立への基礎を養うことが、究極的な目標である。

- 2 学校の施設を利用し、先生や友だちなどのかかわりを深めながら、学校での生活を豊かにすることを目指して、第1学年において「学校たんけん」という活動を計画した。次の(1)～(3)に答えなさい。

- (1) 校内の他の教職員との連携はどうあればいいか、書きなさい。
(2) 「学校たんけん」を行う前に、児童と確認しておくことはどんなことがあるか、3つ書きなさい。
(3) 「学校たんけん」を通して、児童に気付かせたいことはどんなことか、3つ書きなさい。

- 3 自分の成長が実感として分かるようにするとともに、自分の成長を支えてくれた人々の存在に気付き、感謝の気持ちをもたせることをねらいとして、第2学年において「みんな大きくなったよね」という活動を計画した。自分の成長を実感させるための手掛かりとなるものにはどんなものがあるか、具体的に3つ書きなさい。

- 4 現行の小学校学習指導要領解説「生活編」の「指導計画の作成等」について、次の①～⑦にあてはまる語句を下のア～ソから選び、その記号を書きなさい。

- ・ 生活科の学習において、児童が自ら学び、自ら考え、(①)な学習ができるようにするためには、(②)のある指導計画を作成することが第1に重要である。
- ・ 絵や作文などだけでなく、活動している中での児童の表情、しぐさ、(③)などから児童を理解することも大切である。それらが指導計画に反映されて、望ましい生活科の授業を展開することができる。
- ・ 多様な活動ができるようにするためには、教師の(④)な指導を工夫することが大切である。
- ・ 低学年児童は、活動と(⑤)が(⑥)であり、児童の活動は総合的である。
- ・ 児童の生活は、(⑦)の様々な人々とかかわることによって豊かになっていく。また、それは自立への基礎を養う上でも大切である。

- | | | | | |
|-------|--------|-------|--------|--------|
| ア 合科的 | イ つぶやき | ウ 一体的 | エ 気付き | オ 思考 |
| カ 反応 | キ 主体的 | ク 地域 | ケ 創意工夫 | コ 双方向的 |
| サ 協力的 | シ ゆとり | ス 積極的 | セ 意欲的 | ソ 学校 |